



vol. 33

2016.3



公益社団法人 千葉県緑化推進委員会



森を育て、木を使う 大切なのは、 共に生きていくという気持ち



～木製品の使用と温暖化対策～

1997年に京都で開かれた第3回気候変動枠組条約締約国会議（COP3）。ここで採択された京都議定書では、地球温暖化対策として二酸化炭素など6種類の温室効果ガスの削減目標を掲げています。2015年パリで開催されたCOP21で採択されたパリ協定では、各国は森林を含む「温室効果ガスの吸収源・貯蔵庫」の保全、強化に取り組むべき、としています。さまざまな取り組みが世界中で行われている中、私たちにできることを考えてみましょう。

知っているようで知らない？ 京都議定書とは

会議が京都で行われことからその名で呼ばれる“京都議定書”。正式名称は、気候変動に関する国際連合枠組条約の京都議定書と言います。この議定書の中では、各国の温室効果ガス6種の削減目標が定められており、日本は第一約束期間（2008年から2012年までの5年間）に、二酸化炭素（CO₂）の排出量を1990年の水準より6%削減することを約束。

そのうち3.8%を国内の森林によるCO₂の吸収量を

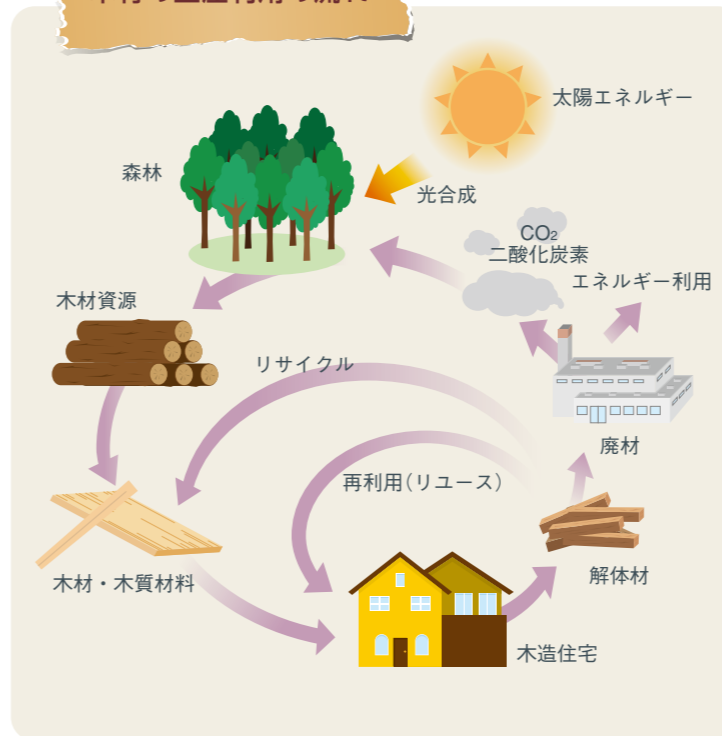
増やすことで達成する計画となったのです。第一約束期間が経過し、その目標値は実際に達成することができましたが、そこにさまざまな努力がありました。

日本の森林の現状と 林野庁による木づかい運動

森林によるCO₂吸収量を増やす……しかし、日本の森林は近年手入れが行き届いていないことが多く、荒廃が進む状態であるため、京都議定書の目標値達成も危ぶまれました。必要なのは、しっかりとCO₂を吸収することのできる健康な状態の森林です。

本来森林は、適切な伐採や植樹などを繰り返し、循環させることが必要なものです。しかし、近年はライフスタイルなどの変化から木材製品の使用が減ったり、木材価格の問題から国産材の消費が減ったりと、有効に活用されていません。また、樹木の伐採が環境破壊につながるなどの間違った認識もあり、森の循環が行われなくなっています。戦後間もなく植樹された人工森林のほとんどが伐採期を迎えていることから、木材の利用促進が大きな課題となっています。

木材の生産利用の流れ



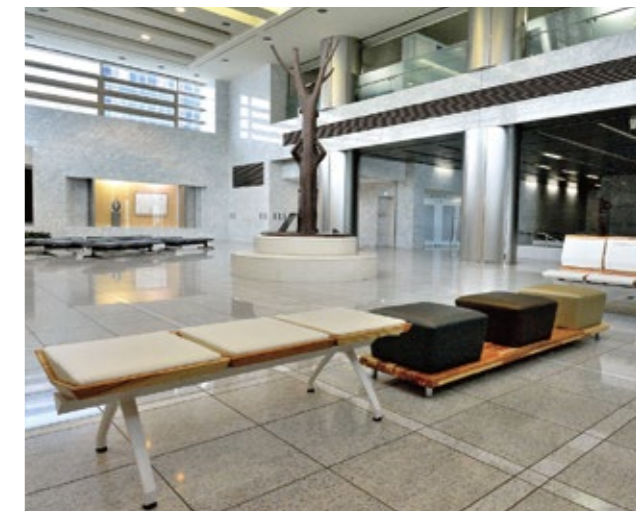
そこで、林野庁を中心として2005年度から、国民運動としての「木づかい運動」を開始しました。国産材の積極的な利用を通じて活性化し、CO₂をたっぷり吸収する元気な森林づくりを進めています。そして、京都議定書第一約束期間終了後も木づかい運動は継続しており、国産材利用拡大のために、さまざまな取り組みを行っています。

県の取り組み CO₂の固定化とは？

もちろん、千葉県でも森林の循環のためにさまざまな取り組みが行われており、県産木材の住宅利用についてはCO₂固定量を認証する「ちばの木づかい」CO₂固定量認証制度が設けられています。樹木は成長中に吸収したCO₂を炭素化して貯蔵しますが、それは伐採された後も維持されており、これを固定化と言います。つまり、木製品はそれだけで、CO₂を固定しているのです。

この固定量を認証する制度は、県産材利用を推進するだけでなく、森林や地球環境の保全に対する認識を深めるきっかけになることも期待されています。

また、県庁本庁舎や成田空港第3旅客ターミナルビルに県産材を使ったベンチを設置するなど、多くの人々に実際に県産材に触れて、その良さを実感していただくようなPRが図られています。こうしたさまざまな取り組みを象徴するように、「千葉の森林から生まれたサンプスギの木目模様のチーバくん」のピンバッジとストラップも誕生（企画・販売：千葉県木材振興協会）、売り上げの一部は緑化推進に役立てられるなど、啓発活動にも力を入れています。



千葉県庁1階県民ホール



成田国際空港 第3ターミナル国際線エリア



県産材使用を示すメッセージボード
写真提供(上下): 成田国際空港(株)

千葉県産サンプスギ製 チーバくんグッズあります



チーバくんピンバッジとチーバくんストラップ(各300円)

「ちばの木」を使ってちばの森林を元気にする取り組みの一つとして、「千葉の森林から生まれたサンプスギの木目模様のチーバくん」のピンバッジとストラップができました！
売り上げの一部は緑の募金に寄付され、緑化推進に役立てられますので、ぜひお買い求めください。

- 販売場所
- 千葉県庁中庁舎地下1階 生協売店
 - 一般社団法人千葉県木材振興協会 (東金市山田800番地)

県産材の魅力を発信

今回、こうした県産材の利用を積極的に進めている、木更津市の株式会社ティ・エス・シーさんのモデルルーム(2015年オープン)を訪問し、お話を伺いました。同社は、集成材の製造、加工、販売などを手掛けています。

「これまで千葉は、木材に関しては消費県ではありましたが生産県ではありませんでした。しかしサンプスギに代表される質の良い木が存在するのは事実。これを生かして、ぜひ木材の地産地消を進めたいと思い、4年ほど前から輸入材から国産材、そして県産材へと切り替えを進めてきました」と、取締役会長の田淵和正さん。まずは使われずに山林に放置されている部分や、柱を取った後の端材を引き受けるところから始めたそう。それらを見た目(正目・板目)や色に関わりなく集成材として商品化するところから着手。「従来も杉材は建築に使われてきましたが、ここでは床板や扉、さまざまな家具、キッチンなど、何にでも使用し製品化しています」とのこと。モデルルーム内では木目や色合いなどさまざまな集成材製品を実際に目で見て、手で触れて感じることができます。田淵さんは「千葉県民の皆さんが県産材の存在を知り、利用が広がり、市場が大きく安定することで材木の業界もビジネスとして成立することになります。これが森林の循環につながり、CO₂の削減等にも貢献できるんです」と、すべてが好循環になることを願っているとのこと。



株式会社ティ・エス・シー
取締役会長 田淵和正さん

現在は、集成材を曲木の技法でアーチ型にし、狭小建築物などの耐震補強に使用する技術を開発中なのだそう。

県産のヒノキ、スギ、マテバシイをふんだんに使ったモデルルーム



水回りにも木材を使用



床にスギの集成材を使うのは新しい試み



※モデルルーム見学は、事前に電話連絡が必要です。

木材利用を推進する ウッドデザイン賞

こうした国産の木を使って森を循環させようという取り組みはさまざまな角度から行われています。そのひとつがウッドデザイン賞。木の良さや価値を再発見させる製品や取り組みについて、特に優れたものを消費者目線で評価、表彰する顕彰制度で、ライフスタイルデザイン部門、ハートフルデザイン部門、ソーシャルデザイン部門と、多角的な視点での表彰が特徴的です。受賞者には、さまざまな広報・PRの場が提供されたり、生産から消費に関わる人のマッチングが進められたりと、未来につながる取り組みが2015年にスタートしました。

“木のある豊かな暮らし”が普及・発展し、日々の生活や社会が彩られ、木材利用が進むことが目標のウッドデザイン賞、身近にこのマークのついた製品などが増える日も近いかもしれません。

CO₂削減という地球規模の取り組みはもちろん、水源のかん養[※]、山地災害の防止など森林が担う役割は大きなものがあります。正しい知識を得て、一人ひとりが積極的に木材の利用を増やすことは、健全な森を育み、私たちの心も暮らしも豊かにしていくもの。身近な木製品に、目を向けてみませんか？

※森林の土壌が、降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させる機能を持つ。また、雨水が森林土壌を通過することにより、水質が浄化される。



アイデア満載！ウッドデザイン賞

建築、木製品、取り組み、技術、研究など、木材利用促進につながるすべてのモノ・コトが応募対象となるウッドデザイン賞。受賞作品は、グッと気を引かれる魅力的なものばかりです。建築物や家具、おもちゃなどはもちろん、市場開拓のための取り組みや、木材による触覚、視覚、嗅覚刺激の研究なども受賞しています。感謝の言葉を書いた木板を、全国一斉に温浴施設で浴槽に浮かべるイベント、銭湯のプラスチック桶を木製にして木材利用を啓蒙するなど、ユニークなものもたくさん。今、注目の顕彰制度です。

ホームページ: <https://www.wooddesign.jp>



今回の学校は

県で一番新しい小学校に木を植える
— 印西市立牧の原小学校 —

新設校だからこそ
児童主体の手作りで

2015年4月に開校したばかりの印西市立牧の原小学校。全校児童76名(2016年3月現在)の真新しい学校は、校舎内にたくさんの木材が使われた、やさしい印象。校章や校歌なども、1期生となる児童たちの意見やアイデアを取り入れて作成されたり、印西市出身のシンガーソングライターに作詞作曲を依頼したりするなど、さまざまな面で児童や地域が主体となっている学校です。

校内には田んぼや畑があり、野菜や米などを育成。親子で稲刈りを行ったり、実際に収穫したものを食べたりと、自然や大地の恵みを食育などにつなげています。

校庭には芝生の遊具コーナーなどもあり、今後も児童数が増えていくことが予測される住宅地にありながら、自然と一体となった学校運営がされています。

自ら植えた木の成長を見守り、
次世代に伝えていきたい

こうした新しい学校に、2016年2月、緑の募金事業(三井生命保険株式会社協力・苗木配布事業)



春には
花が咲くかな?

で、ドウダンツツジ 180本、コデマリ 10本、イロハモミジ 10本が寄贈されました。三井生命柏支社や当会も出席して行われた記念式典では、学校を代表して4、5、6年生の児童たちがドウダンツツジをプール脇に植樹。

「今はまだ小さな苗木ですが、これらが大きく成長し、児童たちが将来自分の子どもなどを連れて来て『これはお父さんやお母さんが植えた木だよ』と、言える日が来るのが楽しみです」と語るのは教頭の岡田光靖先生。自分たちで植えたことで愛着を持ち、命を育む大切さを学んでほしいと願っています。

慣れない手つきで大切に植えた苗木。これからは大切に手入れをし、木々の成長と共に子どもたちも成長し、地域を支え、次の世代に多くのことを受け継いでいってほしいものです。



ヤスミ資材(株)の緑化エリア(手前)

「自然環境を守るため、常に緑化運動を構成企業に働き掛けています」と、理事長の棚倉英雄さんは話します。棚倉さんは、プライ

組合構成企業の意識向上で
緑の再生を誓う

中部山砂事業協同組合は、山砂

を採取した跡地を豊かな森に復元しようと、設立当初から積極的な活動を展開しています。

裸の山を再び森へ

山砂採取跡地の緑化は技術的に大変難しいとされています。その中で構成企業が取組んだ特徴的な事例があります。

ヤスミ資材(株)では、30年前から緑化活動を開始。当初はスギを植樹したものの土壌に合わず試行錯誤の後、クスやマテバシイ、シラカシなど広葉樹を植えています。

根腐れを防ぐため、水はけを良くしようと畝を作り、高い場所に植樹するなどノウハウを蓄積してきました。さらに、間引きした木は別の緑化エリアに移植。手間を惜しまずに育てた結果、裸の山が緑豊かな森へと少しずつ蘇っている。

DATA

千葉県中部山砂事業協同組合

昭和43年、山砂事業を営む企業が集まり、設立された。現在25の企業が参加している。採取場は主に小櫃、小糸、富津の3地域に集中し、関連法規に従い操業を続ける。県内シェアは60%以上を占め、採取した山砂を首都圏に供給する。

「緑化作業は、大変多くの時間や費用が掛かりますが、行政の指導や学習会などを通し、今後も組合内での意識を高め、取り組みを続けていきます」と、棚倉さんは力強く言葉を続けました。

三盟産業(株)では、平成23年から、38haの採取跡地のうち7.24haに、生長が早いとされる早世桐約1万5千本を植樹し、短期間の緑化を研究しています。将来的には桐の特性を生かし、木材やチップとして活用し、森を循環させたいとのこと。

企業と
みどり

千葉県中部山砂事業協同組合

ベートでも自宅近くの山を、遊歩道を備え生物多様性の観点を取り入れた里山へと整備するなどし、自然環境保全に力を入れています。組合では年に2回、防災も兼ねたパトロールを実施しており、加盟25社の代表が、広大な採取地域を回ります。各々の会社が採取跡地をどのように整備し、どんな木々を植樹しているのかを知り、情報交換をしています。また、年2回チャリティゴルフ大会を開催する中で募金を呼び掛け、森林整備や緑化など森づくりに役立ててほしいと、全額「緑の募金」に寄付をしています。



早世桐の苗木(三盟産業(株)提供写真)(上)と生長の様子(下)

おすすめします。
この本 a bookshelf



「木をかこう」

作者/ブルーノ・ムナリー
訳者/須賀敦子
至光社 1,429円+税

イタリア・ミラノ生まれの造形家である作者は、従来の考え方にとらわれない自由な発想で、実験的でユーモアのある仕事をしている。本書でも、木の描き方を、簡単な原則とさまざまなバリエーションで展開して、子どもにも、大人にも、新しい視点を提示、身近な自然の姿を見直させる。親子で実践してみたい。

「薬草の博物誌 森野旧薬園と江戸の植物図譜」



著者/佐野由佳 他3名
LIXIL出版 1,800円+税

いわゆる日本漢方が見直されている。奈良県大宇陀町は薬草の里と呼ばれ、江戸時代の薬草植物園が現存する。森野吉野葛本舗の十代当主、賽郭が創設したもので、育てた薬草の植物画も遺した。代々大切に守られた園の様子とその意義をはじめ、貝原益軒、平賀源内らの植物図譜の流れ、近代に続くその影響を紐解く。

森の
名手・名人

(公社) 国土緑化推進機構を中心に、全国の緑化推進委員会が展開している「もりのくに・につぼん」運動。森林を守り育て、その恵みを生かして、持続的に循環させようというものです。そこで、森林に関わる人とそこから生まれた文化に注目し、全国から「森の名手・名人100人」を選定。27年度、千葉県では2名が名手・名人に選ばれました。

宇山 正男さん(南房総市・84歳)
〈加工部門〉

日本三大うちわの一つ、房州うちわを作って60年余。県南部のメダケを材料に、その製造工程をすべてこなせる唯一の職人です。平成23年伝統工芸士に認定され、後継者を養成しながら、うちわ製作体験の講師も務めています。



江澤 貞雄さん(木更津市・68歳)
〈森づくり部門〉

山林経営とブルーベリー栽培の相性の良さに着目し、営農指導員を早期退職して山林を切り開き、観光ブルーベリー農園を整備しました。森林浴をしながらブルーベリーを摘むという「林業と農業のコラボレーション」を実現させたのです。



※写真左が江澤さん

今回ご紹介した2冊のいずれかを各1名様にプレゼントします。ハガキに、ご希望の書名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、(公社)千葉県緑化推進委員会「プレゼント」係にご応募ください。また、本誌をご覧になった場所、ご意見、ご要望もお書き添えください。あて先は8ページ下、締め切りは7月末日(当日消印有効)です。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

春季・緑の募金にご協力ください

平成28年度 緑の募金運動
目標額 3,300万円



3月1日から5月31日まで県内全域で「春季・緑の募金」運動を行っています。募金運動の方法は各市町村で異なりますが、募金は当委員会、各市町村窓口、募金箱設置にご協力の企業・団体の事業所等でも受け付けています。その他、企業・職場単位の募金など、ご関心の際には当委員会までご連絡ください。

平成27年度の募金総額は32,726,738円に達しました。お寄せいただいた募金は、学校や公園といった公共施設の緑化や緑の少年団に代表される森林環境学習、森林ボランティア活動の支援などに大きく役立てられました。

また中央事業として東日本大震災被災地域の復興事業（旭市の海岸林再生植樹）を行いました。この場をお借りしてご報告とお礼を申し上げます。



平成27年度 公共施設等の環境緑化事業を実施しました

（公社）ゴルフ緑化促進会並びに県内協力ゴルフ場のご協力のもと、プレイヤーによる緑化協力金を原資に、市町村から希望が寄せられた下記4カ所の公共施設などに植樹を行いました。



両総用水上部緑道（大網白里市）

市町村	場所	樹種・本数
船橋市	都市計画道路 3・4・25号線	ヒラドツツジ180本 ネズミモチ2本
成田市	成瀬台第三街区公園	サツキツツジ100本
大網白里市	両総用水上部緑道	ソメイヨシノ4本 ヒラドツツジ143本
長南町	山内ダム	ソメイヨシノ8本 イロハモミジ3本

第二期・県民参加によるみどりの再生事業参加者募集

津波被害等が甚大な海岸林をはじめとする森林の再生活動（森林ボランティア）に参加しませんか？ ご関心の際は当委員会ホームページご参照、または事務局までお問い合わせください。



国土緑化運動ポスター原画コンクール展示会のお知らせ

平成27年度国土緑化運動ポスター原画コンクール入賞作品展示会を下記のとおり実施します。10,253点の応募の中から選ばれた素晴らしい作品の数々です。次代を担う子ども達の緑や自然に対する思いやメッセージをぜひご覧ください。

当コンクールは平成28年度も実施します。たくさんのご応募をお待ちしております。

期間	場所	展示作品
4/11(月)～ 4/22(金)	千葉市中央区市場町1-1 「県庁本庁舎・中庁舎1階連絡通路」 ※土、日曜日は除く	特別賞、特選の計36点
4/26(火)～ 5/2(月)	千葉市中央区新町1000 「そごう千葉店 地階ギャラリー」 *最終日は16:00まで	特別賞、特選、入選、協賛賞の計75点
5/12(木)～ 5/20(金)	成田市上町549 「千葉信用金庫 成田支店」 ※休業日は除く	特別賞、協賛賞の計15点
5/26(木)～ 6/3(金)	八街市中央9-11 「千葉信用金庫 八街中央支店」 ※休業日は除く	特別賞、協賛賞の計15点
6/14(火)～ 6/26(日)	印西市原山1-12-1 「県立北総花の丘公園 花と緑の文化館内」 ※休館日は除く	特別賞、特選、入選、協賛賞の計75点
6/28(火)～ 7/10(日)	柏市柏の葉4-1 「県立柏の葉公園 公園センター内」	特別賞、特選、入選、協賛賞の計75点
7/20(水)～ 8/28(日)	千葉市中央区青葉町977-1 「県立青葉の森公園公園センター内」	特別賞、特選、入選、協賛賞の計75点
9/1(木)～ 9/20(火)	千葉市稲毛区天台6-5-2 「千葉県青少年女性会館」 ※休館日は除く	特別賞、特選、協賛賞の計39点
9/22(木・祝)	環境イベント「エコメッセ2016in千葉」 会場：千葉市美浜区中瀬2-1 幕張メッセ国際会議場	特別賞、特選、入選、協賛賞の計75点

※会場等都合により展示期間等が変更になる場合もございますので、最新の情報は当委員会ホームページでご確認ください。

表紙の絵

表紙の作品は平成27年度国土緑化運動ポスター原画コンクールにおいて、中学校の部、千葉日報社賞を受賞した、南侑那さん(中3)の作品です。



2016年3月発行
発行／（公社）千葉県緑化推進委員会
URL <http://www.c-green.or.jp/>
〒299-0265 袖ヶ浦市長浦拓2号580-148
TEL.0438-60-1521 FAX.0438-60-1522
印刷／凸版印刷（株） TEL.043-350-5611

※この広報誌は、古紙配合率100%の再生紙を使用しています。